

【取組内容】 子どもに委ねる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を支える授業デザイン

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現のために、単元別に「学習の手引き」と「ルーブリック」を作成することが多い。これらがあることにより、子どもたちが各教科等の見方・考え方を働かせ課題解決に向かい、自己の学びを内容知と方法知の観点から振り返られる。これらの形式は、学校で統一するのではなく、各先生の自由度の中で工夫し様々な形で作成している。教師自身の試行錯誤により、より学習効果がある物を作成し、実践した結果や手応えなどを教師間で情報交換し、さらに工夫改善して作成している。

マイプラン学習	理科「てこのはたらき」学習のてびき	(標準時間 8 時間)	
単元の課題 …小いながらでも家に作業ができる道具のみつとは？ 単元のゴール …実験や観察をもとに、小いながらでも家に作業ができる理由について説明する。 「てこのしくみ」はたらきや「てこ」を利用した道具」について調べ。			
・単元の課題についてまとめる。 ・「てこのはたらき」について調べる。 ⑦わたしたちの身の回りには、バール(くぎぬき)やさのきなどのように、小いながらでも家に作業できる道具があります。なぜ、道具を使うと作業ができるのでしょうか。	★チェック1 デジタルカード提出 ★チェック2 レポート提出 ★チェック3 チェックテスト		
学習の流れ			
学習内容 ①てこのはたらき 一斉 小いながらでも家に作業ができる道具は、どんなしくみになっているのだろう。 ②棒を使うだけでなく マイプラン てこをどのように使えば、重いものを小いながらで持ち上げることができるかを調べる。 ③てこのうでをかたぬけるはたらき マイプラン てこが水平にひくうごきのきまりは何だろう。 ④てこを利用した道具 マイプラン てこを利用した道具は、どんなしくみになっているのだろう。 ⑤「上皿てんびん」や「おぼかり」で実験 マイプラン てこのつり合いを利用して重さをはかる道具を使って、重さを正確にをはかるだろう。	教科書 P154～155 P156～158 P159～163 P164～167 P163・213	デジタルカード 1～2 3～8 9～15 16～20 21	学習ノート 学習カード P48 P49～51 P52
★チェック1 学習カードと学習ノートを生徒に見せる。			
⑥「てことは？」「小いながらでも家に作業ができる道具のみつとは？」の課題についてまとめる。 (最低どちらか1つの課題をする 時間があれば2つやってみよう)	★チェック2 レポートを先生に見せる。	キャンパ「ホワイトボード」 学習ノート P53	
★チェック3 チェックテスト(タブレット課題)を先生に見せる。			
のチェックテスト(タブレット課題)をする。			
★チェック3 チェックテスト(タブレット課題)を先生に見せる。			
こまでには、必ず終わります。			
発展学習 ①わたしがさんどよにさんどのソーニーの課題を解こう。 「てこのはたらき」チェックテストをつくる。	さんずう マイプラン学習しゅう なまえく		

学しゅうの 手びき

★マイプラン学しゅうのしきは、じぶんが 学しゅうするすべです。

★まのしゅじしや、しんじかんたてとき いしんがで きてく すべです。

★まのしゅじしや、しんじかんたてとき、しんじかんたて、しんじかんたて、すべでもよいです。

★学しゅうカードのトココースをあたえた人は、すべいしんコースをししゅうコースにチェンジししゅうしゅう。

カード はたらき	① いしんが しんじかん	② かんがえ しんじかん	③ かんがえ しんじかん	④ かんがえ しんじかん	⑤ かんがえ しんじかん
いしんが しんじかん しんじかん しんじかん	いしんが しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん

トココースの ココまで、かんがえ、しんじかん！

カード はたらき	① いしんが しんじかん	② かんがえ しんじかん	③ かんがえ しんじかん	④ かんがえ しんじかん	⑤ かんがえ しんじかん
いしんが しんじかん しんじかん しんじかん	いしんが しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん	かんがえ しんじかん しんじかん しんじかん

どもだちに もんだいを つくって みよう！

理科 ルーブリック				
S	A	B	C	
 マイ学習力 自分の力をよく理解し、発展学習や学生にもチャレンジした。	日＋発展学習にも取り組むことができた。	単元計画・課題を達成し、学習に集中して取り組み、チェック2クリア!	集中して取り組むことができず、チェック2まで終わらなかった。	
コミュカ	クラス全員と関わる事ができた	関わった人が6人～15人	関わった人が5人以下	誰とも関わらなかった。
情報収集	A＋自分の気づき・疑問を解決するための情報を集めることができた。	B＋自分の気づき・疑問(Qワードなど)を書くことができた。	必要な情報をホワイトボードに短い言葉で集めることができた。	教科書やwebサイトの情報をそのまま抜き出した。
整理分析	A＋整理したことが分析したことから自分の考えをみ出すことができた。 (〇〇という理由から、自分から……に気づく、など)	B＋整理した情報を分析することができた。 (〇〇という理由から、自分から……に気づく、など)	集めた情報や実験結果が正しいことを確認しながら、整理(並べ変えたり、比較したり)することができた。	集めた情報を整理できず、そのままにしておいた。



明治維新をジャッジ！

～明治の国づくりを進めた人々～

単元のミッション ルーブリック



	S	A	B	C
内容	点数をつけ、根拠と理由を①②に関連しながら、 具体的に書くことができる。 ①誰が何をしたのか、それはどのような思いからか。 ②世の中はどのように変化したのか			点数・根拠・理由がかけっていない。①②をふまえていない。 内容が不正確。
	良かった点・悪かった点の2つの視点から 理由を書くことができる。			
	様々な立場（例：人々・政府など）に立って理由を書くことができる。			

多角的・・・様々な立場（例：人々・政府など）に立って考えること。

達人 グラフ達人への道

STEP①

全体の値がいくら
ある、これらの変化
が予想できる。

STEP②

共通していること
が何かわかる。

STEP③

全体の数字がどのよ
うに変わっているか
がわかる。

STEP④

全体を見て、わりあ
いがはいちばんどの
がどれかわかる。

STEP⑤

グラのタイトルと
単位が何かわかる。

名人

(例) 機械工業のわりあいは増え続けているから、2050年ごろには50%を
超えると思う。

(例) 全体の生産額が増え方が小さくなってきているので、20年後にはあ
まり変化がなかいかもれない。

(例) 食料・化学・資材品工業の工業生産額のわりあいが増えたり減りた
りしているところが共通して見えた。

(例) それぞれの工業でのわりあいは減っていても工業生産額は増えている。

年	機械工業	化学工業	食料工業	資材品工業	その他
1950年	15.0%	19.3%	12.2%	29.1%	24.4%
1960年	15.6%	17.0%	11.8%	27.1%	28.5%
1980年	15.6%	15.7%	11.8%	22.3%	34.6%
1985年	15.6%	15.7%	11.8%	22.3%	34.6%
2000年	15.6%	15.7%	11.8%	22.3%	34.6%
2050年	15.6%	15.7%	11.8%	22.3%	34.6%

修行中

増えているもの、減
っているもの、変
化がはいちばんの
どれかわかる。

見習い

グラのタイトルと
単位が何かわかる。



やなせたかし

パフォーマンス課題 ルーブリック



	S	A	B	C
内容	①心にひびいた言葉や出来事 ②その言葉や出来事への感情 を書いている。			文章が書けなかった。
	なげ、その言葉や出来事に心にひびいたのかという 自分のことと関わりから考えを語っている。			
	身近な人物やどんな人物か（人物 名）についても書いている。			
交流	友達の文章を読んで、感想を交流した。			交流できなかった。
	自分が選んだ人物と比べ、共通点やちがう点について の感想を交流した。			
	小説や詩などたくさん読んで、感想 を自由に書いている。			

めざせ！音楽づくり名人！

音色
強弱
音の重なり

レベル ①



楽器を3つ
組み合わせた。

4種類のカードを
使った。

レベル ②



木、皮、金ぞくの
音色のちがいを考えて
楽器を3つ組み合わせた。

強弱 を考えて、カードを
4種類使って並べた。

レベル ③



楽器を組み合わせることで
変わる 音色の変化を
考えて組み合わせた。

強弱、音の重なりを考えた
カードを4種類使って
並べた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 情報活用能力の育成 共通理解のための自校作成「情報活用能力ループリック」

研究主題

「人とつながりながら主体的に学ぶ子どもの育成」

～情報活用能力を生かし、自ら考え深め合う授業を目指して～

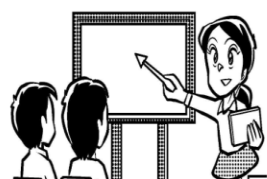
本校の研究主題

令和4年度から本校では「**情報活用能力の発揮**」（問題解決・探究における情報活用能力）についての研究を進めてきている。本年度は、学習の基盤としてさらなる**情報活用能力を育成**し、人とつながりながら主体的に学ぶ子どもの姿を目指しさらに研究を進めている。

情報活用能力を育成するプロセス

小学校版情報活用能力ベーシック
(日本教育情報化振興会)より

課題の解決



④まとめ・表現

- 目的を考え、伝えたい内容を明確にする
- 適切な表現を工夫する
- 判断の根拠や理由、思考の過程を示す



②情報の収集

- 実験・観察・見学などの一次情報
- 本や新聞、インターネットなどの二次情報

②情報の収集

③整理・分析



①課題の設定

①課題の設定

- 問題意識を持つ
- 予想や仮説を立てる
- 達成すべき目標



③情報の整理・分析

- 文章などの情報の意味を正確に理解する
- 異なる情報を比較・分類したり関連づけたりする
- 対話によって多面的・多角的に捉える

⑤振り返り・改善

- 学習内容をまとめる
- 学習方法を評価・改善する
- 自身の変化や成長について確かめる

⑤振り返り・改善



職員研修

研究主題を達成するために、4月に、「情報活用能力とは」というところから、校内研修を毎年行う。情報活用能力とは資質・能力であり、ICT機器の操作は情報活用能力を育成するためのスキルの一つであるという共通認識のもと、情報活用能力の「育成」と「発揮」を意識し、年間指導計画を見直し、指導に当たる。なお、本校のDX戦略アドバイザーである前田康裕先生の著書にある左図のような資料を使用し職員研修を行うことで職員の理解を深められている。

自校作成情報活用能力ループリック

自校オリジナルの「情報活用能力ループリック」を作成し、育成する力の明確化と共有化を図る。ループリックは、
A.情報収集 B.整理・分析 C.まとめ D.表現
の4カテゴリー別で作成し、低・中・高学年・中学校の4レベルを明示している。これを教職員と児童が共通理解し、さらなる情報活用能力を育成を目指し、実践を進めている。

【取組内容】 情報活用能力の育成 自校作成情報活用能カルーブリック

情報活用能力グループリックの活用

A.情報収集

B.整理·分析

C.まとめ

D.表現

A.情報収集	S（名人級）中学校	A（上級）高学年	B（中級）中学生	C（初級）低学年
①メモをとる	・本業をされている方がおいて、相手の言葉や表情について、要約するところがある。 ・主要なキーワードを挙げておく。	・相手の言葉や表情や態度に必要な情報を抜き出して記述できる。	・相手の言葉や、ほい言葉をそのまま書き写すことができる。	・どうも……という、だじけのないことばのききとて ・ほうほうをきくことができる。
②写真・動画を撮る	・撮影のルールを理解した上で撮影することができる。 ・撮影の目的、条件設定して撮影することができる。 ・自分の写真や動画を鑑賞し、整理する。写真を使った活動につなげることができる。	・撮影する写真や動画の用途を意識し、自画像や家族や友達等々に撮影することができる。 ・対象物の正面、アングル、構図などを意識して撮影できる。 ・撮った写真や動画を保存・共有することができる。	・とりたてものがよく見えるように、自分なりに工夫をする。 ・相手の写真や動画を上手に撮り場所などと考えようとするところがある。 ・撮ったものを保存する。	・どうしていいか、つかっていないものに悩むことがある。 ・しゃべりながら撮ることがある。
③インターネットで調べる	・引用するサイトの信頼性や正確性を見極めることができる。 ・他のサイトの情報と比較して、自分の判断を下すことができる。	・引用するサイトの出所先を意識し、その信頼性の高い資料を判別して必要な情報を抜くことができる。	・音声・フリック・タイピング入力などでワードを入力できる。 ・検索・結果からワードを見明らかにすることができる。 ・必要な情報を選定することができる。	・ブラウザをまどろして、したいページへ移動することができずワードを音声やフリックで入力できる。
④図書・資料をさがす	・求めている情報を探すことに加えて、図書室などのような場を探索し、発見をしようとする行為を習得することである。	・自分に必要な図書や資料を効率的に見出し、課題解決のために活用することができる。	・図書室や図書館で、自分に必要な本や資料を探すことができる。	・よいといわれている本のなかから、じぶんに合うものを探せる。
日本1年度版(NDC)の調査項目および実施内容のうち資料リテラシーに関する。				
⑤アンケートを行う	・調査結果のとおり方・表現方法等を考慮して適切なアンケートを考えることができる。 ・役々の立場で考えて、アンケートを作成したりすることができる。	・回答者に配慮し、比べわたりやすいアンケートを作ることができる。 ・役々の立場で考えて、アンケートを作成したりすることができる。	・答ええ方の統一によって、比べわたりやすいアンケートを作成できる。	・あいだにないたい、しつもんをめ、聞くことができる。
面接アンケートの内容の説明したり、お礼を伝えることができる。				
⑥インタビューを行う	・インタビューの時間を意識するところがある。 ・質問への回答を受けて、その場でさらなる質問や質問の変更ができる。 ・つけいや顔に姿勢に気を配ることができる。	・質問の疑問点などに丁寧に答へずばずんがかりかかわり込まずに質問の順番を変えていかけることができる。 ・問いあひつやお礼を伝ええることができる。	・質問の答えを聞いて、さらに聞き直さなくても、その場で問いつづけることができる。	・たねいことを あいてに聞けることができる。

C.まとめ	S (名人級) 中学校	A (上級) 高学年	B (中級) 中学年	C (初級) 低学年
①新聞形式 (リーフレット等を読む)	・主張が読み手に伝わるよう、定められた分量で記事の重要部位をやり付け、見出しをつけることができる。 ・絵や写真、表やグラフなどを用いてリード文の配置のバランスを考へることができる。	・絵や写真、表やグラフなどを用いてリード文をつけて作成できる。 ・本文は見出しをつけ、定められた分量で割り付けすることができる。	・絵や写真などを用いて作成し、見出しをつけて記事にすることができ、活動内容を返り、主張点を明確にすることができ	・えやしゃんなどをもちいてきくせいしん、かつどうきふりやうだい、じぶんのかんがをを文しうがすることができ
②報告文形式	・読み手の状況を意識し、主張が伝わるように、明確にならないよう、資料等を精選し、表現することができる。	・定められた分量で主張を明確にし、資料のレイアウトを考え、貼り付けることができる。	・文字の大きさ・文字種・ルビ、改行、餘白・挿入等ができる。 ・段落をつけて、前後の文章を入力することができる。	・だんらくをつけて、つたえたい文しうを入力することができる。
③ポスター形式	・相手意識を大切に、最も伝えたい言葉や画像を精選し、全体の配置のバランスを考へて表現することができる。	・主張点を明確にするために意識した内容や自分の思いに合った絵や画像を添へることができる。 ・見出しやタイトル、説明の文章、グラフ、表、文字の大きさ、色使いなどレイアウトを考へて表現することができる。	・相手に伝えたい内容や絵や画像を添へることができる。 ・見出しやタイトル、説明の文章、グラフ、表、文字の大きさ、色使いなどレイアウトを考へることができ	・あいてにつたえたい、ないようでえやしゃん、みだしやタイトルをえらぶことができる。 ・ポスターのレイアウトを考へることができ
④スライド形式	・サウンド・映像等を貼り付けたり、ハイパーリンクを利用したスライドを作成できる。	・スライドの文字数、画像の枚数、見やすさを考へ、意図した箇所に配置したスライドを作成できる。	・スライドレイアウトを選択し、文字、画像・図形・表・グラフ等を作成できる。	・もじがやぞうをはりつけたかんたんなスライドをつることができる。

※低学年はフック入力や音声入力、中学年以上はローマ字入力で文章を入力する。

※低学年はフリック入力や音声入力、中学年以上はローマ字入力で文章を入力する。

	B.整理・分析	S (名人版) 中学校	A (上級) 高学年	B (中級) 中学生	C (初級) 低学年
①図を使って 思考する		・自分が決めた思考スキルに適った図、表、グラフ、年表、思考ツールを決め、情報をまとめることができる。	・指示された図、表、グラフ、年表、思考ツールの視点で自分なりに考えて、情報をまとめることができる。	・集めた情報を指示された図、表、グラフ、年表、思考ツールにまとめることができる。	・あつめた「じょうほう」をじきれた「ず」や「しょう」などにまとめることができる。
②構成する		・対象に応じて構成や手法を自分が決めることができる。 ・伝えたいことを相手に理解しやすく構成することができる。	・「初め・中・終わり」「起承転結」(概要から詳細)等、伝えたいことを適した順序を選んで組み立てることができる。	・「初め・中・終わり」等、伝えたいことを組み立てることができる。	・あいにくつたえたいことをはじめに、つぎに、おわりにのこえをばてつてじゅんじょでてつこうせいしなことがでる。
③検証する (情報の信頼性)		・発信者・URL・日時・広告の有無から情報の信頼の程度について説明できる。	・発信者・URL・日時・広告の有無から情報の信頼性について判断することができる。	・発信した人・サイトのURL・日時・広告の有無等を確認できる。	・どこからにゅうしゆしたじょうほうかわかることができる。
④データの整理		・ディレクトリの構造を理解して、保存・読み込みができる。	・Word、Excel、PowerPointなどのファイルの保存先を理解している。	・ファイル、ノート、カードなどを内容ごとに仲間分けして名前をつけて整理することができる。	・ファイル、ノート、カードなどをしきしたとおりにせいにすることがでる。

思考スキル

① ペン画 図表する	② ウェビング(イメージマップ) 応用する	③ PMI 多角的に考える
④ Y/N/Yes/No 表裏をいふ・分類する	⑤ フッシュボート 表裏をいふ・分類する	⑥ 円的円角形 表裏をいふ・分類する
⑦ パタフタチャート 表裏をいふ・分類する	⑧ キャンセル・チャート 表裏をいふ・分類する	⑨ プロット表 表裏をいふ・分類する
⑩ クラウドチャート 関係性をつくる	⑪ KWL 表裏をいふ・分類する	⑫ くら多チャート 多角的に考える
⑬ ビタミッドチャート(山崎つう) 表裏をいふ・分類する	⑭ データチャート 表裏をいふ・分類する	⑮ 情報分析チャート 表裏をいふ・分類する
⑯ ビタミッドチャート(山崎つう) 表裏をいふ・分類する・整理する	⑰ 道徳表 道徳性をつくる・整理する	⑱ ダイアモンドチャート 表裏をいふ・分類する

D.表現のスキル	S (名人級) 中学校	A (上級) 高学年	B (中級) 中学年	C (初級) 低学年
①報告する	・定めた条件 (時間・方法等) を意識し、相手の状況を利用して質問を予想しながら適切な手段を選ぶと報告できる。	・伝える相手を意識して、相手の反応を見ながら報告できる。	・相手の方を見て、報告するべきことを簡潔に伝えることができる。	・かいてきたことをよみ上げることができる。
②プレゼンテーション ポスターセッション	・視聴者の視線・表情・しぐさ等に反応しながら、発表することができる。	・身ぶり手ぶりを入れて、視聴者の反応を見ながら発表することができる。	・目標を合わせて、気持ちをこめて伝えることができる。	・スライドやポスターにかけたことをよみ上げながらはっぴょうすることができる。
③グループ ディスカッション	・グループの同意形成を図りながら、最終的な結論や納得解を見出すことができる。	・自分や他者の意見を取り入れながら、最終的なよりよい結論につなげることができる。	・他者の意見を敬って、自分の意見を言うことができる。 ・最終的な自分の考えを深めることができる。	・かだい (テーマ) によってじぶんのいけんをいうことができる。 ・さかじにじぶんのいけんをまとめることができる。
④SNS等での発信	・SNSの他者の書きこみについて不適切なものがあれば指摘して正すことができる。	・個人情報の扱い等情報セキュリティに気を付けてSNSに書きこむことができる。	・言葉遣いや内容など情報モラルに気を付けてSNSに書きこむことができる。	・じぶんのかんがえをSNSにかきこむことができる。
⑤動画を作成する	・伝えたいことを効果的に伝えるために加工した動画を発表に取り入れて表現・発信することができる。	・動画を撮影、動画編集ソフトでテロップやカット、フェードなどの加工をして発表に使うことができる。	・画面のアングルや明るさ、音響などについて撮影することができる。 ・動画をスライドに貼り付けて発表することができる。	・どうがをとったものをつかってはっぴょうすることができる。

○各教室内に掲示
児童にとっての指標であると同時に、教師にとっても育成すべき情報活用能力の共通認識にもつながる。

○児童に個人配付
○達成している項目にシールを貼る
ループリックの達成している項目にシールを貼ることで、自分の位置、次に目指すところがよくわかる。

[illegible]

○低学年用ルーブリック

低学年の児童が活用しやすいよう「初級・中級」のみのルーブリックを作成した。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実

デジタル教科書を活用した算数科における反転学習

算数ノート
ループリック

予習では、「わかったこと」を整理することも大切ですが、自分が「わからなかったこと」を見つけておくことも重要です。ループリックでは、「どんな予習が良いのか」を具体的に示して児童と共有しています。

【算数ノートの達成ポイント】	
S まとめでは、めあてを整理して「わかったこと」を書くことができる。（例：〇〇ということがわかった。） A ポイントになる考えもノートに文章で書くことができ。（例：ポイントは、〇〇を△△考えたところ）	20分
B 答えや考え方を先に自分で整理してから進める。 C 大事な言葉やわからなかったことを赤ペンなどで色付けし、読みやすいノートにまとめている。（メモでもOK）	15分
D スマートレクチャーを見て、ノートや図に書き込みながら学習している。 E 動画を止めて考える時間をとって進めている。	10分

学習の手引き	学習の手引き	学習の手引き
1. 単元の目標や具体的な活動の流れを児童と共有します。今日の学習と明日の学習のつながりを見通して学習を進めることができます。チェックプリントがいつあるのか、テストまで何時間あるのかなど、児童が学習のペースを調整するためには必須です。	2. 単元の目標や具体的な活動の流れを児童と共有します。今日の学習と明日の学習のつながりを見通して学習を進めることができます。チェックプリントがいつあるのか、テストまで何時間あるのかなど、児童が学習のペースを調整するためには必須です。	3. 単元の目標や具体的な活動の流れを児童と共有します。今日の学習と明日の学習のつながりを見通して学習を進めることができます。チェックプリントがいつあるのか、テストまで何時間あるのかなど、児童が学習のペースを調整するためには必須です。

学習の手引き

単元の目標や具体的な活動の流れを児童と共有します。今日の学習と明日の学習のつながりを見通して学習を進めることができます。チェックプリントがいつあるのか、テストまで何時間あるのかなど、児童が学習のペースを調整するためには必須です。

説明活動

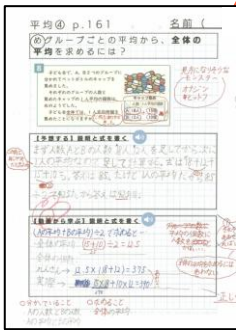
予習で学んだことをもとに、児童同士で説明し合います。予習でわかったと思っていても説明活動を通して、実はよくわかっていなかったことにも気づくことを大切にします。また予習でよくわからなかった問題の解決方法を友達からさく時間にもなっています。アウトプットする学び方の良さにも触れさせたいと考えます。

教師の役割

教師は、予習や説明活動の様子を見取り適切な支援を行います。児童同士での活動だけでは、目標達成が難しい場合には、個別または一斉で「どうしてこの式で求めるの？」などと問いかけたり、児童の思考を整理してあげたりして支援します。理解がより深くなるように働きかけています。

ノートづくり

ワークシートをもとに予習を行います。問題文からわかること、本時のめあてのポイントを色分けて、自分に合ったノートづくりをしています。わからなかったことも、メモすることで授業で友達や先生に質問できる準備をしています。



動画教材

動画解説があることによって、算数科に苦手意識がある児童も、予習に取り組みやすくなりました。動画を止めて自分で考える時間をとったり、わからなかったことを繰り返し見たりできるため、よりよい予習のスタートをきることができます。



学習者用デジタル教科書 動画教材



Sharepoint 算数ホームページ

ホームページには、学習の手引き、児童の良いワークシート例、練習問題の解答例などを掲載し、いつでもどこでも児童が見れるようにしています。児童が、学びやすいように、また、よりよい学び方を探っていけるような情報を提供できるように意識しています。

練習問題で復習

従来は、家庭で取り組んでいた練習問題や計算ドリルでの復習を、授業中に取り組みんでいます。学校なら、困ったときは友達や先生に相談することができるので、わかるまで学習できる安心感があります。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】校務DX（標準仕様とクラウドを活用し教員の働き方改革につながる取組）

校務の効率化、Teams内にジャンル別のチャンネルを作成し、チャット機能で情報共有

《ポイント》

○ジャンル別のチャンネルを作成

「日報」「各学年」「DX」「研究授業」等のチャンネルを作成し、各担当が情報を発信。

○閲覧後は、確認状況がわかるようにスタンプ👍14やコメントなどのリアクションをする。

○各学年チャンネルでは、日々の実践や悩みを気軽に共有。

○授業研チャンネルでは、授業中に教員同士でリアルタイムでチャットにコメントや写真をアップして、情報を共有。

《成果》

○自分のタイミングで伝達・閲覧が可能。

○印刷・配布の手間なく、手軽に資料を共有。

○夏場の暑さ指数・健康観察（心の天気）の結果・行事の追加資料や変更点など、情報をすぐに・どこからでも・何度でも共有することができた。

○教員同士がクラウドでつながり、気軽に相談したり、情報交換したりできるようになったことで、自然と学び合う教職員員の姿が見られるようになった。

○授業研チャンネルでは、子ども達の学ぶ姿をいろいろな目線でふり返ることができ、参観できなかった先生方も授業の概要を知ることができた。また、授業者にとっても、授業中に気づけなかった子ども達の学ぶ姿を知る授業記録となった。



↑ Teamsの画面

各学年チャンネルの様子→

↓ 授業研チャンネルの様子



リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 対話とリフレクションによる授業研究会 ～学校DX戦略アドバイザー 前田康裕先生を招いて～

教師の学び方改革：教師による『対話とふり返りを柱とした探究的な学び』

《対話とリフレクションによる授業研究会とは》

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を、ICTを活用しながら、**対話とリフレクション**（自分自身の授業や思考を客観的にふり返る）を通して実現することが目的。授業のポイントを**概念化**し、自分の授業の改善点を考え、新しい実践につなげる。



「主体的・対話的で深い学び」を**教師自らが体験的に**理解できるようにする。

《成果》

研究授業のみの議論にならず、参加者が自分の授業を**対話によるポイントの概念化**を通してふり返り、**授業改善**につなげることができた。来年度は、1年間を通して「**授業改善プロジェクト**」にも取り組んでいきたい。

従来の授業研究会

- 1、授業者の自評
- 2、質疑応答
- 3、意見交換
(挙手指名型)
(ワークショップ型)
- 4、助言

問題点

研究授業のみの議論になって
参加者の授業改善につながらない
参加者の発言の機会が少ない
助言者に依存していないか？

対話とリフレクションによる授業研究会

前半：司会者による進行

- 1、授業者の自評（5分）
- 2、グループで対話→タブレットで同時記入(10分)
(良かった点：ピンク、改善点・疑問点：水色)
- 3、司会による意見の整理→焦点化（5分）
- 4、改善案についてグループで対話（10分）
- 5、改善案の全体共有→タブレット＋口頭（10分）

前半：前田による進行

- 6、対話によるポイントの概念化(5分) →前田
- 7、概念化された言葉をタブレットに記入(10分)
- 8、対話による自分の授業の改善点(10分)
- 9、全体のまとめ（前田）(10分)
- 10、全体の振り返り(10分)

研究授業をやっている
1人1人の授業は
改善されるのだろうか？



←前田先生の研修スライドより

↑研究会の様子

授業改善プロジェクト

